

会 議 録

会議の名称	令和7年度 和泉市子どもの読書活動推進協議会
開催日時	令和7年8月22日（金）14時～15時20分
開催場所	和泉市役所 本館3階 3A・B会議室
出席者	・協議会委員 小前委員、水沼委員、弓削委員、宮脇委員、前山委員、上田委員 福井委員、中野委員、田中委員、高野委員（岸田委員代理） ・事務局 大槻教育長 生涯学習部：辻教育次長兼生涯学習部長、前田生涯学習推進室長、 橋本生涯学習担当課長、和田生涯学習担当総括主幹、 松下生涯学習担当総括主査、鈴木主事、今村主事 教育・こども部：東部長、上田教育指導監、永井学校教育室長、 隅埜教育推進担当課長 和泉市立図書館：岩本和泉市立図書館統括館長、肥後和泉図書館長、 佐藤シティプラザ図書館長、川岸北部リージョンセンター図書 室長 人権文化センター図書室：高畠人権文化センター所長
会議の議題	（1）令和6年度子どもの読書推進協議会における主な質問事項について （2）令和6年度事業報告について （3）令和6年度数値目標の実績について （4）令和7年度読書関係コンクールの実施状況について
会議録の 作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の 確認方法	☒ 会議の議長の確認を得ている ☐ 出席した構成員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
その他の必要事項 （会議の公開・非 公開、傍聴人数等）	会議：公開 傍聴人：なし

審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
事務局	皆様、大変お待たせいたしました。 ただ今から令和7年度和泉市子どもの読書活動推進協議会会議を開催させていただきます。本日は委員の皆様におかれましては、公私何かとお忙しい中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。 本日の会議は、委員13名中、10名のご出席をいただいております。和泉市子どもの読書活動推進協議会規則第6条第2項の規定により、過半数に達しておりますので、当会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。 なお、本日の会議は、記録のため録音させていただきますので、ご了承のほどお願いいたします。 また、本会議は公開となっており、傍聴者を受け付けておりましたが、本日傍聴者の方はいらっしゃいません。
事務局	では早速ではございますが、次第に沿って進めさせていただきます。 まず最初に次第の1、和泉市教育委員会教育長、大槻亮志からご挨拶を申し上げます。
教育長	委員の皆様、こんにちは。 和泉市教育委員会教育長大槻でございます。 皆さまにおかれましては大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。 また平素より、本市教育行政の推進ご支援、ご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。 本市で平成17年度から取り組んでおります、子どもの読書活動推進事業も、令和7年度で21年目となりました。 この間、ブックスタートの定着や、ぶっくん通帳の導入、作家を招いての講演会の開催など、様々な取り組みを進めて参りました。 デジタル化の進展により、インターネット、SNSがより身近なものとなり、紙媒体に触れる機会の減少や、電子書籍の普及など、子どもを取り巻く読書環境が変化し、子どもたちの読書に対するニーズも大きく変容しています。 そのような読書環境の変化に伴い、本市では、電子図書館の使い方に関する出前講座や、乳幼児健診での絵本配布など、子どもたちが様々な形で本に触れ合える環境を作る事業に取り組んできました。 子どもの読書活動は、人生をより深く生きる力を身につける上で欠くことのできないものであり、様々な言葉や文章との出会いは、子どもの健康的な心身の発達に繋がります。 そのためには、日常での読書が習慣となるよう、地域、学校、図書館が連携して、時代に沿った読書環境を整えていく必要があります。 本市は市制69周年、来年70周年迎えます。

	市長と１００周年に向けて、どういう市にしていくのかという中で１つ、本を読む町にしたいと話しております。和泉市ってどんな町と聞かれたときに、本を読む人がたくさんいる町ですよと言われるように、 色々な部分で、今申し上げた学校教育もそうですが、地域教育や生涯学習教育、様々な面で、読書の啓発に取り組んで参りたいというふうに思っております。 本日集まりの委員の皆様には、和泉市のさらなる読書活動の推進に向けて、子どもの読書活動についてはもちろん、大人の読書活動も含め、様々な視点から忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。 どうかよろしくお願いします。 なお、大変申し訳ございませんが、別の公務のため途中で退席させていただく場合もございますが、ご了承ください。 よろしくお願いします。 以上、まことに簡単でございますが、開会に当たりましての私の挨拶とさせていただきます。 本日はどうぞよろしくお願いいたします。
事務局	ありがとうございます。 では、ここからの進行につきましては、和泉市子どもの読書活動推進協議会規則第６条第１項の規定に基づきまして、会長に議長として議事進行をお願いいたします。会長、よろしくお願いいたします。
会長	それでは、令和７年度和泉市子どもの読書活動推進協議会を始めさせていただきますと思いますので、よろしくお願いいたします。 １６時閉会の予定としておりますので、質疑応答をさせていただいた後、ご出席の委員の皆様には短い時間ですが、ご意見をいただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
会長	それではただいまから、議事を進めさせていただきます。 次第の４、議事の１、令和６年度子どもの読書活動推進協議会における主な質問事項について、事務局より説明をお願いします。 これは継続的に引き継がれているということで、前回の質問事項をご紹介いただきたいと思います。それでは事務局よりお願いします。
事務局	はい。事務局より、令和６年度子どもの読書活動推進協議会において寄せられた主な質問事項につきまして、ご説明いたします。 まず、資料番号１、令和６年度子どもの読書活動推進協議会における主な質問事項についてをご覧ください。こちらの資料は、昨年度の会議における委員の皆様からの主な質問事項と、事務局の回答内容をまとめたものでございます。 順番にご説明いたしますが、まず１つ目は、『不読者率について、最近では、

	紙の本に限らず電子書籍で読む場合もあるが、電子書籍はこの統計（令和5年度数値目標実績）においては含まれているか？』というご質問でございました。 事務局の回答としましては、紙の本に限定しており、電子書籍は不読率の統計には含まれておりませんが、和泉市立図書館における令和6年度末の電子図書館のコンテンツ数は、15,704点となっており、今後も利用促進に努める所存です。 続いて2番です。『学校図書標準の達成について、学校図書館の蔵書充実に対する取り組みなどがあれば、報告願いたい』というものでした。 事務局の回答としましては、令和5年度で小学校の図書受入冊数が約6,600冊、廃棄冊数が約4,600冊。中学校の図書受入冊数が約12,000冊、廃棄冊数が約8,000冊となっており、廃棄も進めながら、新規受け入れも行い、蔵書の充実に努めている。となっております。 続いて3番ですが、『和泉市読書おたよりコンクールについて、低学年の部が令和5年度は118人の応募があったのにもかかわらず、令和6年度には44人と大幅に減少しているが、理由はあるのか？』というご質問でした。 事務局の回答といたしましては、毎年夏休みの課題として提出している学校が多いが、令和6年度は夏休みの課題にはしていない、または、応募する学年数を減らす学校があったことが、応募数が減少した主な理由である。となっております。 今年度は、校長会・教頭会で、事前にコンクールの存在を周知し、応募数の増加に取り組んでおりますまた、各学校へのポスター・チラシの配布も夏休みに完了しております。 以上で、令和6年度子どもの読書活動推進協議会における主な質問事項の説明を終わります。
会長	ありがとうございます。質問の趣旨を踏まえて取り組んでいただいたことを報告いただきました。ただいまの説明について、ご意見、ご質問等ございませんでしょうか。 では続きまして、令和6年度の事業報告及び、令和6年度の数値目標の実績について、事務局より説明をお願いいたします。
事務局	はい。事務局より、令和6年度の事業報告につきまして、ご説明いたします。 資料番号2、令和6年度新規・継続取り組み事業をご覧ください。この資料は、令和6年度に各部署にて新規及び継続して行った事業をまとめたものでございます。 初めに、1ページの目次をご覧ください。2ページから6ページまでが、各図書館で新規に行った催しの詳細について記載したものでございます。合計11個の授業を新規に行いました。 次に7ページから13ページまでが、各部署と図書館で継続して行っている事業につきまして記載したものでございます。合計77個の事業を継続して行っております。

事務局	続きまして、2ページから6ページ目をご覧ください。その中で新規事業といたしまして、3ページ目に記載されております、児童書のリサイクル市を和泉図書館にて開催いたしました。寄贈本や廃棄本などを参加者に譲与する場を設けて、様々な本と出合う機会を提供することができました。 続きまして、7ページから13ページ目をご覧ください。その中で、継続事業といたしまして、8ページ目に記載されております中高生向けの講演会としまして、宮下恵菜様の講演会&サイン会、親子向け講演会として開催いたしました鈴木まもる様のおはなし会&サイン会、また、一般向け講演会として開催いたしました、中山七里様の講演会&サイン会を実施し、参加された方には、大変好評を得る講演会となりました。 なお、参考資料といたしまして、和泉市立図書館において令和7年度、2025年度夏季に開催されます、イベントの一覧を添付しておりますので、ご覧ください。 今後も子どもたちなどの読書活動推進に繋がるような取り組みを実施して参りたいと考えております。 以上で令和6年度事業報告についての説明を終わります。 続きまして、令和6年度の数値目標の実績につきまして、ご説明いたします。資料番号3、令和6年度数値目標実績をご覧ください。 和泉市生涯学習・スポーツ推進計画において、読書活動の推進として掲げられている5項目の数値目標につきまして、令和6年度の実績を記載しております。 それでは、各項目の数値実績についてご説明いたします。まず、市民1人当たりの市立図書館貸し出し点数です。前年度を下回り、目標値には2ポイント届かないという状況ですが、市立図書館の入館者数は年々増加しております。本を借りて自宅で読む従来の利用形態から図書館で本を読みながら長時間過ごす滞在型の利用へと利用者ニーズが変化していると思われます。 次にNo.2、市民全体の市立図書館実利用者率については、ともに前年度を下回りました。 No.3、市民1人当たりの市立図書館の蔵書点数については、前年度を上回っております。本市が策定している、和泉創発プランで掲げておりますとおり、子供から大人まですべての世代にわたって本に親しめるよう、書籍の充実に取り組んでおります。 No.4、18歳以下の子どもの市立図書館の利用者率については、前年度を下回る結果となりました。 No.5、自宅での小学校6年生不読者率については、前年度から好転しているものの、令和2年度以降、30%台の不読者率が続いており、おおよそ3分の1の児童が本を読んでいないという状況になっております。 なお、和泉市子どもの読書活動推進計画は令和5年度末に終了しておりますが、参考資料として、引き続き推移を追いかけており、計画上に掲げられている20項目の数値目標につきまして、令和6年度の数値を記載しております
-----	--

会長	ので、ご覧ください。 以上で令和6年度数値目標実績の説明を終わります。 ありがとうございました。 事業の一覧と数字の一覧ということで、何かお気づきになった点はございますでしょうか。 では、私の方から、気になった点をお話させていただきます。事業一覧について、毎回報告していただいて、面白そうない取り組みだなと思いました。 今回は、人権文化センター図書室でおこなわれた和泉市出身の絵本作家の方の講演会があったり、或いは「僕は猟師になった」という映画の鑑賞会であったり、非常に図書館らしいいい取り組みをされていると思いました。 それからヤングアダルト向けの作家講演会やおたよりコンクールも応募者が増加したということで、非常に良かったと思います。 そして、学校関係の方で、こちらの司書教諭連絡協議会を通じてですね、学校図書館を活用した授業の好事例について共有及び協議を行ったという項目があります。学校図書館を授業に役立てることが今目指されておりますので、こういった事例をぜひ積み重ねていただいて、和泉市の学校図書館の授業への取り組みを進めていただけたらと思っております。 もう1点、ブックスタートで、今、絵本配付はされているということですが、読み聞かせは再開されていないのでしょうか。
事務局	はい。事務局より回答させていただきます。 ブックスタート事業に関しましては4ヶ月児健診時のときに絵本の配布をしております、コロナをきっかけにブックリストの配布や読み聞かせの方を中止しておりました。 今後、団体での読み聞かせの方向ではなく、個人個人で対応していくという、保健師からのご連絡があり、今後は読み聞かせの方は行わないという、ご回答をいただいております。
会長	ありがとうございます。 また、数値目標実績の方ですが、やはり不読率が気になります。これはコロナの間に読書環境が変わったという点もあるかと思います。30%という数字が出ています。小学校6年生はだんだん本を読まなくなってくる時期で、低学年だともっと読んでいるとは思いますが。先ほどおっしゃったように、コロナの前だと大体20%ぐらいのレベルで推移してきたと思いますので、昨年よりは減っているということで、改善の方向にあるかと思っておりますので、引き続き不読者の減少に取り組んでいただけたらと思っております。 それでは、続きまして、議事の4、読書関係のコンクールの実施状況につきまして事務局より説明をお願いいたします。
事務局	はい。事務局より、令和7年度に実施予定の読書関係のコンクールにつつま

	して、ご説明いたします。 今年度は、読書に関わる3つのコンクールを実施いたします まずは、図書館を使った調べる学習コンクールについてご説明いたします。 資料番号4、図書館を使った調べる学習コンクールの実施状況についてをご覧ください。 和泉市立図書館を使った調べる学習コンクールは、当コンクール実行委員会が主催で、今年度が10回目の開催となります。このコンクールは、身近な疑問や興味を持ったことなど、各自で自由にテーマを決めて、公共図書館や学校図書館の資料を活用して詳細を調べ、それをまとめ上げた作品を募集するというものでございます。 図書館の利用促進はもちろんのこと、自らの疑問を解決し、答えを導き出したときの楽しさ、充実感を子どもたち自身に実感してもらい、学び続ける姿勢、解決策やアイデアを生み出していく力を育む機会となることを目的としております。 今年度は9月1日までを応募期間とし、作品を募集いたします。そして、9月19日の1次審査及び10月9日に行われる最終審査を通して、小学生低学年の部、小学生中学年の部、小学生高学年の部、中学生の部の4部門ごとに入賞作品を選出いたします。そして、特に優秀と認められた作品を、公益財団法人図書館振興財団主催の全国コンクールに推薦する予定となっております。 なお、前年度までの応募状況等につきましては、資料番号4の裏面をご覧ください。 以上で、図書館を使った調べる学習コンクールについての説明を終わります。 続きまして、和泉市小学生読書おたよりコンクール、中学生POPコンクールについてご説明いたします。 資料番号5、令和7年度和泉市小学生読書おたよりコンクール、中学生POPコンクールの実施状況についてをご覧ください。こちらのコンクールは、和泉市教育委員会が主催となり、今年度が5回目の開催となります。 小学生読書おたよりコンクールは、本を読んで感動したことや、印象に残ったことなどを絵と文章でお手紙の形式で表現した作品を募集いたします。 中学生POPコンクールは、お気に入りの本やおすすめの本を、絵と文章で紹介するPOP作品を募集いたします。 公共図書館、学校図書館の利用促進はもちろんのこと、児童・生徒が本に親しみ、読書への関心を高める機会となることを目的としております。なお、今年度は8月25日から9月19日までを応募期間とし、作品を募集いたします。そして、10月2日の1次審査及び10月17日の2次審査を通して、小学生読書おたよりコンクール低学年の部、高学年の部、中学生POPコンクールの3つの部門ごとに入賞作品を選出いたします。なお、入賞作品は12月に和泉図書館、シティプラザ図書館、北部リージョンセンター図書室を巡回展示し、多くの市民の方々にご覧いただく予定でございます。 また、いずれのコンクールも、マクドナルドフランチャイジー株式会社フル
--	--

会長	グラッド様に特別協賛をいただき、副賞のマックカードをご提供いただきま す。 なお、前年度までの応募状況等につきましては、資料番号５の裏面をご覧く ださい。 以上で和泉市小学生読書おたよりコンクール、中学生POPコンクールにつ いての説明を終わります。 ありがとうございました。 ただいま各コンクールについてのご説明がありましたが、こちらについて何 かご質問やご意見等はございますでしょうか。 はい。では、ここまでで、事務局からの報告は終わりましたが、資料をご覧 になられて何かお気づきになったことがございましたら、お話いただけますで しょうか。
委員	はい。では、数値目標について、公立図書館も学校図書館も、資料が増えて いる様子がうかがえた一方で、全体として、利用量や読書量が下がっている傾 向にあるように見えるので、今後に役立てていければという段階だとは思いま すが、もっと利用に繋げていくとか不読者率を減らすことにつなげていく仕掛 けがあればいいなと思っています。 また、本を買うとか資料を増やすなど様々な部分に予算を投入しているところ が見えて、素晴らしいなと感じたので、それらをうまく使えるとよりいいな と思いました。
会長	ありがとうございます。 それでは、報告についてはここまでということで、委員の皆様、ご意見等ご ざいましたらお話いただきたいと思います。お一人２分程度でお願いいたしま す。 では、お願いいたします。
委員	調べる学習コンクールが９月１日までということで、現在募集中だと思うの ですが、どれぐらいの応募点数になっているのかなと。一昨年は少なかったけ れども、順調に伸びている感じなので、今年はどのぐらいの応募があるのか楽 しみになると思いました。 また、先ほどの会長からの質問への回答の、ブックスタートの個人的に対応 というのは保健師さんが読み聞かせをしてくださるということでしょうか。
事務局	事務局より回答させていただきます。 読み聞かせというよりは、ご自宅一人一人の乳幼児に訪問させていただき、 お母さんのメンタルケアやお子様の体調管理を、重点的に行っていくという回 答でした。

委員	ありがとうございます。 また、定期健診などの際に読み聞かせをしてあげるのが、お母さんにとってよい体験になるかなと思います。私事で恐縮ですがうちの娘も、どうやって読めばいいかわからないというようなことを言っていました。 なので、読み聞かせの体験は色々な場面でおこなっていると思うのですが、体験数は多い方がいいと思うので、もし可能であれば、増やしていただくと嬉しいなと思います。 保健センター等は、お母さんたちはどうしても絶対行かなければならないところで、図書館に興味のないお母さんたちも行く場所なので、可能であれば読み聞かせの実施を検討いただけたらいいなと思っています。
事務局	事務局より失礼いたします。 私の説明不足で大変申し訳ございません。保健センターと保健福祉センターの方では、4ヶ月児健診時は、図書館から、絵本の配布を実施しております。それに伴って、読み聞かせを今まで集団で実施していたのですが、コロナの影響で集団でおこなえなくなり、読み聞かせを中止しておりました。 その後、復活するか復活しないかという判断になったのですが、集団で子供を集めてというのではなく、個人個人で、保健師が健診時以降に訪問して、別のアプローチを行っております。 図書館としては、本の配布、読書の振興というものは今後も続けて参ります。よろしくお願いいたします
会長	ありがとうございました。 ブックスタートというのは、絵本をプレゼントするだけで終わるのではなく、絵本を読んであげてくださいというメッセージを伝えるところが本来の趣旨ですので、その場で読み聞かせをすることは本来の趣旨にのっとった方法であったと思います。 様々な事情があったと思いますけれども、絵本が単なるプレゼントに終わらないようなものが必要だと思います。 それでは、引き続きお願いします。
委員	はい。大阪に40ほどの市町村がある中で、去年の文部科学省の読書活動推進モデル事業に取り組んだ15市町村の中に和泉市が入っていて、読書活動推進を行っている結果が出ていることをとてもうれしく思いました。 先ほど、娘さんが子どもにどう読み聞かせをしたらいいかわからないというお話を聞いたときに、私は、小学校と中学校のPTAに参加させていただいてるんですけども、小学校の方で6年生が1年生のお世話をする時間もありますので、先生方にご相談して、そういった学校の時間を使って子どものときから読み聞かせをする機会があれば、大人になってからも、自分の子どもに読み聞かせをできる大人になるのではないかなと思いました。 また、おたよりコンクールやPOPコンクールに似た取り組みとして、八幡

	の中学校でビブリオバトルという、おすすめの本を持ち寄って5分間で自分たちが読んできた本を紹介するというバトルをおこない、結果は給食の時間の放送でインタビュー形式で流しているそうです。 子どもたちはゲームなど競い合うことが好きなので、学校で子どもと関わる私としましては、子どもたちが楽しんで読書に関わる時間を作っていきたいと思います。
会長	ありがとうございました。 では、次の方、お願いします。
委員	子どもたちは、公共図書館だけでなく、各小中学校の図書室で本を借りています。重たいでしょというくらい借りて帰っているということは（学校図書室の貸出数は不読率の統計に）入っていませんよね。ということは、子どもたちが本を読んでいないとは言い切れないと思います。 私自身、小学校や中学校の図書室に行く機会があるのですが、POPを作るなど、司書の先生の工夫で素晴らしく本が並べられているのを見ます。なので、図書館だけの数値で、和泉市は読書離れが進んでいると言うのはどうかなと思います。 ちなみに、今いらっしゃる方々は、1ヶ月にどれくらい図書館に行って、図書館で本を借りているのですか。
事務局	代表して、事務局より回答させていただきます。 私の回答がすべてではないのですが、私は図書館に雑誌や漫画本を借りに行きます。なので小説などではないのですが、個人的には、図書館を担当するようになってから、漫画や雑誌があるということを初めて知って、買わなくても図書館で見れるということで市立図書館を利用させていただいております。
委員	ありがとうございます。 こちらの会議は子どもの読書活動推進の場ですけれども、やはり大人が本を読んでいない環境では、子どもに本を読みなさいと言えないと思います。 家の中でお父さんやお母さんが本を読んでいると、子どももテレビを消して本を読もうかなという気にもなっていくと思います。
会長	ありがとうございます。 図書館や学校それぞれで取り組みをおこなっている中で、色々な工夫をされています。 学校司書の方は読書に関する取り組みをよくおこなっていると思うので、ぜひ今後も進めていただいて、子どもたちが本を読むきっかけになればと思います。 ここで事務局から発言があるようなので、お願いします。

事務局	事務局から失礼いたします。 先ほど、子どもが学校図書館で本を借りて読んでいるということが不読率の統計に含まれていないのではないかというお話を頂戴しましたが、子どもの不読率に関しましては、全国学力調査という学校でおこなっている調査のアンケートの数字を反映しておりますので、学校図書館で借りた場合も含まれております。 しかしながら、借りた冊数に関しましては、学校全体で冊数データの連携をおこなうことができないため、何冊貸出しているかという数字は反映しておりません。なので、不読率に関しましては、学校ごとに調査しているものを反映しているとご理解をいただきたいと思います。
委員	ありがとうございます。 参考資料「令和6年度数値目標実績（子どもの読書活動推進計画）」の13番目の数値である子ども1人当たりの小学校図書館貸し出し冊数というのは、先ほどのお話にあった数字とは違うのでしょうか。
事務局	はい。事務局より回答させていただきます。 こちらは学校での貸出冊数の平均になりますので、1年間に学校図書館で貸し出された冊数を児童の人数で割った平均ということでご理解いただけたらと思います。
会長	ありがとうございました。 では、次の方、お願いいたします。
委員	はい。先ほど、子どもにばかり本を読ませるのではなく、大人も本を読む必要があるというお話がありましたが、私は本が好きなので、家に本棚があり、本を数十冊は置いています。そして、以前、息子が「家に本棚があって本が並んでいるだけで本に興味を持つようになる」と言っていました。やはり大人が本を読んでいる姿を子どもに見せるということがとても大事だと実感しました。 また、私は仕事の関係で中高生に勉強を教えることがあるのですが、少なからず受験に直接結びつかないことはしない中高生がいます。保護者の方でも、受験に関係のないことはなくていいという認識の方もいます。本を読んでいる時間が受験に結びつかないからもったいないという意識があるなら、その意識を取り除くことも大事だと感じました。 あと、私が教えている生徒の中には学習障がいを持っている子もいますが、文字が並んでいるのを読むだけでしんどそうにしていることがあります。なので、LLブックなど、障がいを持っている子でも読みやすい本がたくさんあるということ、広く周知することが必要だと思います。
会長	ありがとうございました。

委員	様々な読書の形があるということをお話いただきました。 では、次に学校の様子をお話しただけたらと思います。 お願いします。 はい。私からは小学校のお話をさせていただけたらと思います。 先ほどのお話ですが、私は月に2冊ほどしか本を読めていないので、やはり子どもの前に立つ大人が本を読む姿勢を見せないといけないなと思っています。 また、小学校図書館の貸出冊数が出ていますが、毎週図書の時間というものが有りますので、平均で大体70冊ほどだというのは妥当な数字だと感じます。 ただ学校としても、読書の効果はとても大きいと思っております。知識教養や語彙力、表現力は読書によってとても身につくと思っております。子ども間のトラブルであっても、語彙力が少ないと、あほや死ねなど短い言葉で言い返してしまったりします。なので、やはり語彙力、表現力という、自分の言葉を選んで伝える力は大事だと思いますので、想像力も含め、生徒指導的な面でも、読書はとても大事だと思っています。 また、キャリア教育の面からしても、様々な生き方があることを本から学び、視野が広がるので、学校としても読書好きを育てたいという思いでいます。 私が勤めている小学校では、今年度は「読書好きを育てたい」というテーマで研究授業などに取り組んでいます。読書好きを増やすためにというところで、青い鳥など、読み聞かせをおこなう団体に来ていただいて、読み聞かせの機会を年1回必ず取り入れるようにしています。 また、学校図書館では司書の方が本当に様々な工夫してくださっているのですが、図書委員会というものもあるので、どうすれば本を借りてもらえるのかを考えて、くじを作ったり、しおりをプレゼントしたりというように子どもたち自身に取り組んでもらっています。 また、私は色々な学校に行くことがあり、学校図書館の貸し出しシステムが学校によって全然違うと感じます。バーコードで登録するシステムを導入している学校もあれば、紙のカードに本の題名を書いている学校もあります。なので、本を借りるとしても少し手間がかかったりとか、ハードルが高くなってしまうことがあります。ただ、バーコードの機械を取り入れるには、全ての本にバーコードを貼るなど労力のいる作業が必要であり、簡単に導入できるわけではないので、学校ごとの差が激しいように感じます。今、最先端の学校では、アプリで何冊借りたなどの情報が自動で出て、好きな本の傾向やおすすめの本をピックアップしてくれるなど、とても進んだシステムがあります。お金のかかることなのですぐには難しいと思いますが、そういったシステムが全学校に導入されるといいなと個人的には思っています。 ただ先ほど委員の方がおっしゃった、子どものときに小さい子に対して読み聞かせをするというのはいい経験だと思いますので、学校で話してみようと思います。
----	--

	また、私は和泉市の教育研究会という各教科に分かれて研究する会で、図書館部会を担当させていただいてるのですが、そこでは和泉図書館と連携させていただいて、図書館の本を使った面白いゲームやぶっくん手帳のケースを考えるなど、部員の先生と一緒に取り組んでおります。 そういった図書館と学校との連携というものも大事にできればいいなと思っています。
会長	色々と学校現場の様子をお話しいただきありがとうございました。 公共図書館との連携もかなりおこなっているという報告でしたけれども、図書館の方いかがでしょうか。
事務局	はい。事務局より回答させていただきます。 いつも学校の皆様には図書館をお使いいただき、ありがとうございます。学校との連携ということで、今は出前授業を重点的にさせていただいております。電子図書館の出前授業だけではなく、今度は小学校で図書館の使い方に関する出前授業をさせていただく予定となっております。図書館から遠い校区の児童・生徒は公共交通手段で図書館に来ることが難しいので、逆に図書館の方から学校に出向いて、図書館はこういうところだから1人で来られるようになったら来てねとかおうちの人と来てねというように図書館の紹介をさせていただいております。 また、学校配送などで図書館の本を届けさせていただいておりますので、そちらの本も使ってねというところを今後も引き続きアピールさせていただきたいと思います。
会長	ありがとうございます。 では続きまして、保育園からお願いします。
委員	はい。先ほどから不読者率のお話が出ていますが、私どもは保育園なので読書というより、絵本を通して大人と関わり、イメージする力を育てていけたらということで毎週絵本の貸し出しをおこなっております。 子どもたちが自分の好きな絵本を一冊借りて、家に持ち帰り、保護者の方にお家で読んでもらうという取り組みを昔からずっとしておりますが、最近コロナの影響でかなり広まったようで、保護者からウェブ絵本が便利だというお話を聞くようになりました。ウェブ絵本は、音声や効果音もついているため、子どもがよく見ていると言う保護者が増えたと言っています。 しかし、やはりその場その場で子どもの表情を見ながらの語りかけというのが一番大事だと思いますので、そういったことを保護者に伝える必要があると思っています。 先ほど、娘さんが読み聞かせに悩んでいるというお話もありましたが、やはり保護者の方はそうおっしゃる方が多いです。なので、参観などの行事の際には、できるだけ保育士が読み聞かせている姿を保護者に見てもらおうようにして

会長	おります。 しかし、基本的に子どもたちにとって絵本は、持っていけばお母さん・お父さんが自分の方を見てくれるという安心感を与えてくれるものでもありますので、そういうことももっとアピールする必要があると思いました。 上手に読む必要は全くないので、絵本から読書好きな子どもたちに繋げていければ、保育園としては嬉しく思います。 ありがとうございます。 保育園について詳しくお話ししていただきました。 続きまして、高等学校の方をお願いします。
委員	私の学校の取り組みとしましては、図書室が場所的に3階の奥まった場所にあるので、図書室がどこにあるか知ってもらうことから始まります。 図書室の認知から始めまして、図書室の案内ポスターを掲示したり、くつろぎに来られるようにヨギボーを置くとバイトなどで寝不足の生徒が寝るために来たり、観葉植物を置いてみたり、まずはとにかく図書室に入りやすい雰囲気作りに取り組んでおります。 また、文字を読むことが難しい生徒もおりますので、ふりがなが書いている本を買ったり、少しでも勉強になるような歴史の漫画を買って生徒におすすめしたりもしています。そして、漫画から小説も読んでみようと思わっていきなことなどがあり、貸出冊数が少しずつ増えているような状況にあります。 また、先ほどご意見がありましたように、私の学校もバーコード登録が完了しておらず、図書システムが始まってから買った分についてはその場でバーコード登録をしたのですが、それ以前の本に関しては登録できていないので、今はずっと協力して登録にかかっている状況です。 また、読み聞かせにつきましては、最近、校長先生が大型の紙芝居を買っていいよとおっしゃって10冊ほど買ったので、ボランティアの生徒が大型絵本を使って読み聞かせの練習をしたり、生徒が保育園や幼稚園に行き、園児に読み聞かせをするボランティア活動をおこなっております。 園児から楽しかったという声も聞きますし、読み聞かせをした生徒も楽しかった、かわいかったと目をキラキラとさせて話してくれるので、お互いにとって良い活動だと感じています。引き続きおこなっていければと思っています。
会長	高等学校に関してお話しいただき、ありがとうございます。 続きまして、中学校お願いいたします。
委員	私が勤めております学校は、義務教育学校となっております。小学生と中学生が同じ校舎で過ごしているため、同じ図書館を使っております。 その中で、小学生が休み時間に図書館に行って本を借りるという姿は多く見られます。しかし、中学生はやはり同じ図書館となると、小学生が多いと図書室を利用せずに教室に戻る様子が見られるため、少し難しいところがあると感

	じています。 また、うちの学校は小中学校合わせて、司書が1人しかおりませんので、時間的にかなり厳しいところがあると思います。その中で、小学生には1年生から全学年に読み聞かせをおこなってくれているので、子どもたちは楽しく読み聞かせに参加しているという状況で、とてもありがたく思っています。 しかし、クラスごとの人数も少なくないため、司書が1人という状況では少し難しい部分もあるのではないかと日々感じています。 なので中学生の貸出冊数の数字が低くなっているという点で、うちの学校だと司書の人手不足というのも理由として少しあるのかなと思いました。 また、先ほどお話しされていた、受験に直接関係がないので読むことに時間を割くことを躊躇うという考え方の親御さんもいるとなると、貸し出しは難しいと少し思いました。 しかし、数値目標実績を見ていると、和泉市でおこなっている取り組みはとても意味のあることだと感じました。新しい本がたくさんあり、学校にも同じように新しい本を入れてくださっていることもとてもありがたく思っています。
会長	ありがとうございます。 学校図書館の司書となると中々1人だと大変だという話を聞きまして、私自身学校司書の仕事をしており非常に関心がありますので、学校図書館の担当ということで事務局にお話を伺えたらと思います。
事務局	はい。事務局よりお話をさせていただきます。 先ほど副会長からお話がありました、司書が各校1名の配置という中で、学校は規模が本当に小さな学校から大きな学校までである中で、当然活動する時間は同じですので、その活用の仕方が全然違うというのは認識しております。 しかしながら、学校の中で、子どもたちの読書教育をしていくのは、司書だけではないという認識を持っております。 司書教諭が中心ではあるものの、その他の教職員を含めた全員が協力して、子どもたちへの関わりの中で読書教育を進めていくものだと考えております。 なので、司書の配置数が少ない点は認識しておりますが、各学校の工夫もしていただきながら、また、すべての学校の司書が集まり、情報共有をおこなう中で、これからの読書教育を進めていきたいと思っております。
会長	ありがとうございます。 教職員と司書の協働や協力、或いは情報の共有もこれから進めていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。 色々なお話をありがとうございます。 皆さんのお話を聞きまして、いかがでしょうか。
委員	はい。皆さんの様々な視点からの情報共有をしていただき、とても勉強にな

	ると思いながら聞かせていただきました。 委員のお一人のお話にあったように、多様な人々が読みやすい本を導入するということや、多様な視点を得ることでより充実した人生を送ることができるという考えは大切だと思いました。 本を読むことが難しい人にとって読みやすい本の代表例として、電子書籍や漫画が図書館界ではよく挙げられています。ただ、電子書籍や漫画については、数値目標の統計の中ではどれほど電子書籍が使われているかや、多様な人に配慮したものがどれほど使われているかというのは伺えないので、考えだしたら項目が多くなって現場の負担になる面もあるので、あまり入れすぎるのもよくないかもしれないのですが、今のところ、そういった点が測れていないので、たくさんおこなっているところは評価したほうがいいと思いました。 また、電子書籍や漫画に関しては、大人があまり読書として認識していない場合がとて多いです。しかし、漫画や電子書籍を読書の対象から外してしまうと、子どもたちにとって読書のハードルが上がったり、図書館行っても楽しくないと思うってしまうことに繋がるので、子どもの読書へのハードルを下げるという面では、大人が電子書籍や漫画を受け入れる体制を作ることがとても重要だと思いました。 また、学校図書館の貸出システムの話もとても面白くて、貸出の手続きが少し大変なだけで、本当に子どもたちは使わなくなるというのもとてもわかります。 それから1つ1つの積み重ねが本当に大事だと思うので、そういったことも考えて取り組んで、そういったものを評価できるという形にすると、よりよい図書館になると思います。
会長	ありがとうございます。 皆さんの話を聞いて、本当に様々な読書環境の中でそれぞれにねらいがあると思いますので、多様な読書を踏まえた推進活動をこれからも進めていけたらと思います。 事務局から補足等がありますでしょうか。 それでは、皆さん、それぞれの立場からの様々なご意見をいただきましてありがとうございます。 今日のお話を踏まえて、今後とも子どもの読書活動推進に取り組んでいただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。 それでは、進行を事務局に戻させていただきます。
事務局	会長ありがとうございました。 それではこれもちまして、令和7年度和泉市子どもの読書活動推進協議会を終了いたします。 本日はお忙しい中、ありがとうございました。